

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290101890		
法人名	株式会社アシスト		
事業所名	グループホーム ファミリア		
所在地	長崎県長崎市界1丁目10-5		
自己評価作成日	令和5年12月1日	評価結果市町村受理日	令和6年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 6 年 1 月 29 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所間での幼老一環の行事や交流の実施</li> <li>・季節に合わせたお菓子作りや料理をご利用者様と共同で取り組む</li> <li>・ご利用者様やご家族様が定期的に面会や外出の機会を作る</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は設立間もなく、管理者は運営の課題の解決と理念の具現化に取り組んでいる。自治会に加入しており、既に頼りにされる存在となっている。全ての家族とLINEで繋がり、家族との信頼関係を重視している。自治会役員や利用者、家族、行政、近隣グループホーム管理者が参加する運営推進会議は透明性があり、有意義な場となっている。銀行、コンビニエンスストア等の近隣商店も加わる地域ケア会議に参加しており、地域と協働して高齢者福祉を支えていこうとする気概が伝わってくる。法人系列の保育園との双方向での活発な交流は事業所の大きな特徴となっている。広報誌には管理者の高齢者介護に取り組む思いを記しており、地域住民や家族と協力し、“笑顔の絶えない楽しい生活ができる場”の実現を目指している。利用者の幸せを願って支援に取り組んでいる事業所である。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所前に職員の目に入る位置に企業理念を掲示して、利用者様の支援に取り組んでいる	法人理念“地域社会に住む人々の幸福をアシストする”を掲げ、パンフレットに“家族の様な毎日を”と記載している。地域住民、家族と協力し、“笑顔の絶えない楽しい生活ができる場”の実現に取り組んでいる。職員会議で理念に繋がる話題を取り上げたり、広報誌で管理者の思いを掲載したりして理念の共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加(会議等) 自治会に加入して自治会の活動を共に取り組む	令和4年開設時から地域との繋がりが篤い。管理者は日常的に自治会長と連絡を取り合い、祭りへの協力や地域での悩み事相談に応じている。老人会の集まりや心肺蘇生訓練に使用できるよう多目的室を地域に開放している。法人系列保育園と相互に行き来するなど活発に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議などで認知症の方の支援方法や対応などを共有する。 多目的ホールを地域住民の方のサロンのような場所として対応している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かすように努力していく	2ヶ月に1回の運営推進会議では自治会長、民生委員、近隣グループホーム管理者、行政職員、利用者及び家族が出席している。利用者の情報や意見交換の内容を詳細に記した会議録を出席していない家族へ送付している。会議で出た意見を反映した事例がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点があれば問い合わせして確認するようにしている	行政担当課から入居に関する相談や問い合わせがある他、通達等の対応はメールで行っている。市主催の研修会への職員に積極的な参加を呼びかけている。地域包括ケア会議では近隣銀行やコンビニエンスストア等も出席し、堅固な協力体制を気付けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内外での研修の参加を通じて各自が身体拘束を理解しており、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践に向けて、職員アンケートを取り、チェックリストの活用や職員グループLINEで研修動画を配信し、ミーティングで具体例を基に話し合い理解を図っている。職員同士で注意し合っており、今後、他グループホームとの合同研修や施設見学を実施し、更なる理解の深まりとスキルアップを目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の職員の研修の参加を行い現場で各自が不適切なケアを理解した上で取り組んでいる		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用している利用者はいない為、活用していない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解納得していただけるように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望等あれば事務所で協議の上、反映できるように努めている	相談・苦情の窓口、処理手順は明文化し説明している。家族との信頼構築が重要と位置付け、全ての家族とLINEで繋がり、利用者の状況や健康状態を送信し、家族からも相談や要望が届いている。暮らしの様子を載せた事業所便りは喜ばれ、また、運営推進会議の出席の案内と資料、議事録を送付し、事業所への理解を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	共に情報共有を行う機会を確保した上で意見交換などを行っている	職員は、毎月の職員会議や夫々の所属委員会、日常業務の中で意見、要望を伝えている。また、施設長との個別研修の折にも話している。代表も2ヶ月毎に職員会議に出席し、直接意見を聞いている。施設長は意識的に職員へ話し掛け意見を拾い上げ、職員からは委員会の増設や個別支援の強化など、積極的な提案が出ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護現場でのICT導入を行い負担軽減をはかる 食事は外部委託を利用し、利用者で過ごす時間を作っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には外部研修受講の機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部事業所の運営推進会議等に参加したり、県市、グループホーム協議会に加入し研修の参加や情報共有をおこなっている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報を職員に伝え、入所後のコミュニケーションで関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の気持ちを尊重することにより関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様と家族様のパイプ役となり関係性を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的な面会の確保 運営推進会議にて行事等、利用者様の写真や映像で共有している	職員は、家族からの情報や日々の会話の中から利用者の生活歴を把握している。面会には家族や親戚、以前住んでいた住民等が訪れている。正月に居室で家族持参のおせちを食べて過ごす利用者や、家族の協力を得て墓参りや法事、自宅へ外泊、馴染みの美容院へ行く利用者もあり、馴染みの継続支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールにテーブルを置き、お茶会や体操、レクレーションを共同で行っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談に応じており、近所等でお会いする場合は近況の確認を行っています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の表情や行動をくみ取り、職員各自が対象者に個別で支援を行い家族の要望に応えるようにしている	職員は利用者と一緒に過ごす時間を持ち、また、利用者の生活リズムを把握し、食事は気分や状況で場所や時間をずらし、不穏の状況の裏にあるものを知ろうと利用者に寄り添う支援に努めている。難聴者や表出困難な利用者は、筆談や表情や仕草などで判断し、アドバンスケアプランニングに取り組み、意向を抽出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前、ご家族に本人の歴史や、入所後は本人との会話を通じて生活歴の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の状態の変化、過ごし方を把握して情報共有に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	支援職員にアセスメントを依頼し利用者様の変化や体調などを把握し情報共有している	入居時の暫定プランを本プランとして採用し、3ヶ月から6ヶ月後にモニタリングを行っている。毎月職員会議で利用者の現状について話し合い、課題分析や評価を行っている。必要に応じて医師や訪問看護師が入ることもある。家族の意向は日々のLINEでのやり取りで把握し、訪問時や郵送にてプランの同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別でファイルを使用し利用者様の体調の変化等をミーティングに加えて各自情報共有できるように対応しており、介護計画の見直しに活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できることもあるができないこともある		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問美容を利用している(毎月)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医療機関にするか入所時確認を行い、主治医が施設協力医であれば訪問看護事業所、主治医、家族と連携を取り適切な医療を受けられるようにしている	家族の申し出があり、付き添いが可能であれば以前からのかかりつけ医を利用することができる。協力医変更時には情報を引き継いでいる。毎週協力医、訪問看護師の往診があり、歯科、眼科も往診が可能である。24時間オンコールの医療連携体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回訪問看護事業所に訪問を依頼しており、24時間の連絡体制を整えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを病院へ提出し入院先との情報共有に努めている。退院前のカンファレンスも参加し事前に状況確認を必ず行う		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	随時、主治医、訪看職員、介護支援専門員、家族も含めて話しを行っており、共有している	入居契約時に重要事項説明書にて説明し、同意を得ている。アドバンスケアプランに取り組み、医療・ケアについての意向確認書を得ている。年1回看取りケアについて確認し、意向の変化に対応している。重度化の段階にて家族、医師、訪問看護師、担当職員、施設長で話し合い、支援方針の確認を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを確認の上、事故発生時の初期対応等に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	地域の方にも訓練時に参加を依頼し協力して行っている。定期的に訓練を実施している	概ね2ヶ月毎に防災訓練を実施し、年2回の消防立会い訓練の内1回は夜間想定で行っている。避難完了時に、居室ドアに貼っている利用者顔写真を持ち出し、地域住民にも本人確認ができるよう工夫している。BCP、自然災害対策マニュアルの作成はこれからである。	毎月の防災訓練とBCP、自然災害のマニュアル策定が待たれる。利用者情報の持ち出し、避難場所までの搬送手段等課題としてあがっていることを地域と協働して、対応策を講じることが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様各自に合せた声かけや対応を心掛けている。利用者様の居室へ入る時は一声かけて入室するように心がけている	個人情報の取り扱いには契約時に説明し、写真掲載を含め同意の署名を得ている。職員は守秘義務の誓約書を提出し、退職時も再確認している。職員は苗字にさん付けを基本し、排泄や入浴は羞恥心に配慮して、人格を尊重した支援に努めている。ただし、居室のポータブルトイレやパッド類、トイレのパッド類の保管方法に課題がある。	利用者の尊厳を守るために、居室のポータブルトイレやパッド類の保管の工夫、トイレの個人名記入のパッド類の保管方法の検討、工夫が待たれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家族の話しや生活歴を会話の中で行うことで笑顔が多くみられるようになっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の提供時間はその方に合わせて提供する。排泄確認も本人様の状況をみて職員が対応。入浴も時間、曜日にこだわらず入れるときに対応するように心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪を行う。 衣類の選択は利用者様と一緒に 起床時の洗面介助や整容のできない方々には十分対応する		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様が食べたい物や作りたい物があれば行事として食を楽しむ時間を確保し協働で取り組む	食事は配食業者へ依頼し、事業所でミキサー食や刻み食など嚥下状態に応じて提供している。利用者の希望に応え、巻きずしやカレー、どら焼きと一緒に作り、誕生日にはケーキも一緒に作っている。また、保育園児と一緒に作り食べる恵方巻、ノンアルコールビールや甘酒、出前の他、家族との外食など楽しむ支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を毎日、記録し対応 月1回体重測定の実施 状態変化による食事形態の変更の実施 主治医に相談し栄養補給食品などの検討		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員と一緒に口腔ケアを実施している 口腔衛生が気になる利用者様は定期的に歯科往診を行い歯科医師より職員は口腔指導を受けている。自身でできる方には声かけと保持の実施		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別で排泄確認と対応を実施している 日中はトイレでの排泄を心掛けている パッドの変更や、下着の変更を行いコストの削減に努めている	排泄チェック表を付け、利用者のその日の排泄リズムを把握共有し、日中はトイレでの座位排泄を基本とした支援を行っている。夜間のポータブルトイレは使用の都度洗浄している。排泄委員会で、各利用者の排泄状況に合ったパッド類や介助方法を検討し、パッド使用数の減少やリハビリパンツから布パンツへ改善した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	家族様に協力いただきヨーグルトや飲み物を適時提供し排便コントロールを行う 水分量の確認の実施や活動量を増やす等工夫している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人様の体調や気分に応じて、時間帯や曜日にとらわれず入浴支援を実施している	入浴は日曜日以外は準備し、週2回の入浴を基本としている。体調や気分に応じて、日や時間、職員を変えるなど臨機応変に対応している。回数増や同性介助の希望にも対応している。浴室は機械浴があり、車椅子の利用者も全員、浴槽に浸っている。湯は一人ずつ張り替えており、好みのシャンプー類の利用など楽しむ支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯の入眠状況を確認しながら日中で横になる時間を各自持つように意識して対応する		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は文献で職員共有し、訪看職員から内服時の対応など、症状などは確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	保育園との交流会の実施 施設内での季節ひ合わせた行事の実施 買い物支援による気分転換を行う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様との定期的な外出 職員との近所への散歩や買い物を行う	季節の花見やドライブに少人数で、車椅子の利用者も出掛けている。天気の良い日は散歩や外気浴で気分転換を図り、利用者は職員同行で衣類や好きな食べ物を買う買い物支援を楽しみにしている。急な希望に応えカップラーメンや巻きずしを買いに職員同行で出掛けている。家族と外出を介護計画に組み込み、外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時に金銭の保持は施設ではできない事を伝えている。財布は本人様が理解できる範囲内での金額としている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訴えがある場合は電話でのやり取りを行っている 自ら電話ができる入所者は現在いない 家族からの手紙が来ると本人様へ渡している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた温度管理 ホール中庭にオリーブの木を植えており光がホール全体に入り込むつくりになっている 壁には利用者様の作品などを飾っている	中央の共用スペースを挟んで2ユニットを配している。中庭が見渡せるガラス張りのリビングは明るく大型テレビ、マッサージチェア、ソファ、テーブルを設置し、利用者が寛ぐ様子が窺える。飾り付けで季節を感じる工夫もある。空気清浄機を設置し、快適な環境空間となるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用では席の配置などを常に考え利用者様同士が不安なく過ごせるように対応している ソファを設置し一緒に話しができる場所を提供している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様各自、生活上必要なものは設置しており自宅で使用していたタンスや椅子など持参していただいている。他アルバム（写真）など	居室ドアには本人の顔写真を掲示しており、目印となると共に避難時の本人確認の手段ともなっている。職員手作りの誕生日祝い色紙や行事の写真を飾り、馴染みの時計や位牌、冷蔵庫を持ち込み、好みに応じた居心地よく過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	介護ベッドを各自レンタルしていただきその方に合わせた高さやマットを使用している 柵の追加や転倒しないように環境面での配慮を行っている		